



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2022 April to June vol. 214

伝教大師一三〇〇年大遠忌記念
特別展

最澄と

天台宗のすべて

「予告」特別展

河内長野の霊地

観心寺と金剛寺

—真言密教と—

南朝の遺産—



京都国立博物館

だより

二〇二二年

四・五・六月号

伝教大師二〇〇年大遠忌記念
【特別展】

最澄と天台宗のすべて

4月12日(火)～5月22日(日) 平成知新館
 前期展示：4月12日(火)～5月1日(日)
 後期展示：5月3日(火・祝)～5月22日(日)
 ※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替えを行います。

昨年(二〇二一年)は、平安時代初めに仏教界に新風をもたらした伝教大師最澄(七六七～八二二)の二〇〇年の大遠忌にあたる年でした。これを記念した特別展「最澄と天台宗のすべて」が、昨秋の東京国立博物館を皮切りに、九州国立博物館を経て、今春、いよいよ京都国立博物館で開催されます。

本展では、延暦寺における日本天台宗の開宗から江戸時代に至るまでの天台宗の歴史を、国立3館の協力によってこれまでになくスケールで紹介いたします。各開催地ならではの地域特色を活かすと同時に、最澄の教えを受けて日本全国に広まった天台宗の各地で守り伝えられてきた貴重な宝物をご覧いただけます。

ことに、京都は、王城の地であり、比叡山延暦寺はその鬼門を守るとされます。皇室の崇敬も篤く、京都には、皇族が入寺し延暦寺の里坊として営まれた天台宗五箇室門跡(三千院、青蓮院、毘沙門堂、曼殊院、妙法院)が並びます。

当館では、この都府を示すお勝元の豊かな文化遺産を中心に、東北や北陸、中国、四国などに伝わる国宝三件、重要文化財七一件を含む全国の天台の名品三〇件をご紹介します。

特に、関西からは足を運びにくい遠方の名宝、秘仏の展覧は、仏像マニアを自認される方でも必ずご満足いただけるのではないかと存じます。これにより、天台宗が全国に結んだ絆、歴史を改めて感じていただければと存じます。

なお、当館から足を少し延ばせば、天台宗の名跡に容易にアクセスできます。まさに町ぐるみの壮大なスケールをもつ必見の展覧会として、ご来館をお待ちしております。
 (大原嘉豊)

伝教大師 最澄とは

伝教大師・最澄(七六七～八二二)は、真言宗を開いた弘法大師・空海とならんで、中国に渡って仏教を学び、新しい平安仏教の一翼を担った名僧です。新しい生涯は、あらゆる人々を救うという「法華経」の説く理想の世界を実現することに捧げられました。全国に「法華経」を取めた宝塔を建て、六所宝塔、比叡山における大乗戒壇の設立の構想などはいずれも、この理想を実現し、人々の幸せを祈るためのものでした。なかでも、出家者にしか許されなかったそれまでの受戒を、より開かれたものにした大乗戒壇の設立はきわめて革新的であり、日本の仏教に大きな影響を与えました。

最澄の現存最古の肖像画



国宝 聖徳太子及び天台高僧像 十幅のうち最澄 兵庫・一乗寺 (4月12日～5月1日展示) 画像提供：東京文化財研究所

第一章 最澄と天台宗の始まり「祖師ゆかりの名宝」

「法華経」を根本經典とする天台の教えは、中国の天台大師智顛(五三八～五九七)によって大成されました。伝教大師最澄(七六七～八二二)は、その教えをもとに、比叡山延暦寺を創建し、日本天台宗の祖となります。最澄の足跡をゆかりの名宝からたどります。

寺外初公開の秘仏、像内に最澄ゆかりの薬師像を納める



重要文化財 薬師如来坐像 京都・法界寺(真言宗醍醐派)

(右)全身連正背面 X線撮影(CT写真) (左)像内に納められている師如来坐像 3D写真 提供：東京国立博物館 画像作成者：宮田寛



昨年、特別展「最澄と天台宗のすべて」の東京会場(2021年10月12日～11月21日)での展示にともない、所蔵者の了承を得て東京国立博物館にてX線CT撮影を行いました。この調査によって内部の様子や木目が鮮明に捉えられ、像内に納められている最澄ゆかりの薬師如来像を初めて3D画像化。京都会場では、像内に納められた薬師如来像を3Dプリンターで再現し展示する予定です。

天台宗とは
 最澄が打ち立てた日本天台宗は、釈迦の教えの中でも「法華経」こそが完全円満な究極の教え(円教)であるとした中国・隋時代の天台大師・智顛(五三八～五九七)の仏教理念のもと成立しました。そこに最澄が中国で学んだ密教・禪・大乗戒を加えた「円教・密教・禪・大乗戒」の四つの柱をもつ点が、日本天台宗の最大の特徴です。すべてのものに仏になる素質があることを説く「法華経」の一乗思想を教えのいしずえとしながら、弟子たちによって多様に展開した教学は、その後、多くの祖師たちをばくむ母体となりました。

中国で発行された最澄の通行許可証



国宝 伝教大師入唐譯 滋賀・延暦寺 (5月3日～5月22日展示)



延暦寺の重宝を納める



国宝 七条刺納袈裟 滋賀・延暦寺 (4月12日～5月1日展示)

中国より伝えられた袈裟

善徳遺教坐像(伝如來觀音) 愛媛・華妙寺



第二章 教えのつらなり
 最澄の弟子たち

慈覚大師円仁(七九四～八六四)、智証大師円珍(八一四～八九二)は、中国に留学し、最澄が果たせなかった密教の基盤を確固たるものとし、回峰行を創始した相応(八三一～九一八)など、密教を取り入れて飛躍を遂げた天台宗の姿をたどります。



重要文化財 智証大師(円珍)坐像 奥成作 京都・聖護院

12世紀を代表する優品。延暦寺横川中堂の本尊



重要文化財 聖観音菩薩立像 滋賀・延暦寺

リアルに可視化された地獄図の傑作



国宝 六道絵 十五幅のうち阿鼻地獄幅 滋賀・聖衆来迎寺 (5月3日～5月22日展示) 画像提供：奈良国立博物館 (撮影：佐々木香輔)

藤原道長の娘・彰子が未来へ託した地中の宝



国宝 金銀鍍宝相華文経箱 滋賀・延暦寺

第四章 信仰の高まり
 天台美術の精華

慈恵大師良源(九一二～九八五)によって天台宗は最盛期を迎え、その弟子の恵心僧都源信(九四二～一〇一七)は極楽往生を願う浄土信仰を説きました。天台浄土教を中心に、貴族の信仰と結びついた名宝をご紹介します。

日吉大社の権威の象徴



重要文化財 日吉山王金銅装神輿(樹下宮) 滋賀・日吉大社

60年に一度だけ公開される愛媛の秘仏



大阪と和歌山の境にある隠れた名刹 興善寺の平安彫刻を修理後初公開



重要文化財 釈迦如来坐像 経範等作 大阪・興善寺

第三章 全国への広まり
 各地に伝わる天台の至宝

最澄の教えを受けて、その弟子達は日本全国に布教を行います。各地に伝わるさまざまな遺品から、各地域で花開いた天台宗の様相を浮かびあがさせます。

第六章 現代へのつながり
 江戸時代の天台宗

元龜二年(一五七二)、比叡山は織田信長による焼き討ちにあいましたが、その復興に重要な役割を果たしたのが、慈眼大師天海(一五三六～一六四三)です。天海は、徳川家康の懐刀として活躍し、日光・輪王寺、江戸・寛永寺を中心に、関東での天台宗発展の基礎を築きました。



浅草寺縁起絵巻(応永縁起)(部分) 東京・浅草寺

国宝 延暦寺根本中堂の内陣を体感!

「根本中堂」とは、比叡山延暦寺の総本堂であり、最澄が建てた草庵に始まります。現在の建物は、織田信長の焼き討ち後に徳川幕府の援助を得て寛永十九年(一六四二)に再建されたものです。内陣の中央には最澄自作と伝える秘仏薬師如来像と、最澄が灯して以来消えたことのない「不滅の法灯」が安置されています。展覧会場では堂内の様子を部分的に再現し、体感していただけです。このエリアのみ撮影が可能です。



延暦寺 根本中堂 内陣

第五章 教学の深まり
 天台思想が生んだ多様な文化

万人救済を説く「法華経」の思想は、台頭する庶民への指針となり、日本の現実にも適した形で天台宗に変化をもたらします。天台真盛宗の祖、真盛(一四四三～一四九五)や、比叡山の鎮守、日吉山王社への信仰などは、多様な展開を遂げた中世天台宗の様相を示します。



重要文化財 日吉山王金銅装神輿(樹下宮) 滋賀・日吉大社



《君子の花蓮》

名品ギャラリー中国絵画展示室 6月14日(火)～7月24日(日)

北宋の儒学者である周敦頤は『愛蓮説』の中で、泥の中にありながら美しい花を咲かせる蓮の高潔さを讃え、「花の君子」であるといいました。また、仏教でも古くから蓮は清浄な花とされ、浄土に咲き、仏菩薩と共に表されています。汚濁に染まらず清廉を保つ蓮の姿は、人格になぞらえられて尊ばれ、中国絵画の中に好んで描かれる重要なモチーフとなっています。

明時代後期に活躍した藍瑛による「荷郷清夏図」は、荷(蓮)の咲く水郷の夏の景色を描いており、水辺に点々と蓮が表されています。北宋の趙令穰という皇族出身の画家

の作風を学んで描いた作品で、淡い墨と彩色が調和し、涼やかで上品な情趣をもっています。画面奥の水際にたたずむ亭(あずまや)には、水面の蓮を眺める一人の高士がいます。鑑賞者はここに蓮を愛した周敦頤の姿を重ねてみたことでしょうか。この作品は単なる風景画ではなく、蓮の清浄な気が満ちる、俗塵を離れた理想郷を表しています。

展示では蓮の描かれた中国絵画を集めてご紹介いたします。蓮に託された意味を読み解きながら、一点一点をじっくりとご堪能いただきたいと思えます。

(森橋なつみ)



重要美術品 荷郷清夏図 藍瑛筆
長岡みゆき氏寄贈・京都国立博物館

3F-1 陶磁

【日本と東洋のやきもの】

6月21日(火)～9月11日(日)

※6月14日(火)から19日(日)は閉室。

3F-2 考古

【特別公開 熊本・宮崎の古墳文化
―石人と貝輪―】

6月28日(火)～9月11日(日)

※6月14日(火)から26日(日)は閉室。

2F-1 絵巻

【白描】

6月14日(火)～7月24日(日)

2F-2 仏画

【日本の羅漢図】

6月14日(火)～7月24日(日)

2F-3 中世絵画

【中世の扇絵】

6月14日(火)～7月24日(日)

2F-4 近世絵画

【生誕四二〇年 狩野探幽】

6月14日(火)～7月24日(日)

2F-5 中国絵画

【君子の花蓮】

6月14日(火)～7月24日(日)

1F-1 彫刻

【日本の彫刻】

6月14日(火)～7月24日(日)

1F-3 書跡

【観心寺の中尊寺経】

6月14日(火)～7月24日(日)

1F-4 染織

【染めと織りの文様
―水のかたち―】

6月14日(火)～7月24日(日)

1F-5 金工

【室町時代の金工Ⅲ】

6月14日(火)～7月24日(日)

1F-6 漆工

【祭と会食】

6月14日(火)～7月24日(日)

〈予告〉
特別展

河内長野の霊地 観心寺と金剛寺

— 真言密教と南朝の遺産 —

7月30日(土)～9月11日(日)
〔平成知新館2F・1E〕

大阪・河内長野市は、京都から高野山につづく街道の合流地点として栄えた歴史をもつ地域です。ここには観心寺と金剛寺という真言密教の古寺があり、当地における信仰文化の中心を担ってきました。本展は当館が近年実施した文化財調査の成果を公開する機会として、従来知られた名品に加え、新たに発見された寺宝を一举にご紹介するものです。

観心寺は、空海の高弟実惠(七八六～八四七)とその弟子真紹(七九七～八七三)によって整備され定額寺となり、歴朝の庇護を受けました。本尊の秘仏「如意輪観音坐像」(本展では模刻を展示)はとくに著名ですが、平安前期に遡る仏像や資財帳など、類まれな文化財が数多く伝えられています。

金剛寺は阿観(一一三六～一二〇七)が八条院などの帰依を受け再興し、学問寺として発展しました。多くの聖教を所蔵するほか、「日月四季山水図屏風」をはじめ貴重な美術工芸品を豊富に伝えています。近年の金堂改修にあたって本尊の「大日如来坐像」「不動明王坐像」「降三世明王坐像」が京都・奈良国立博物館にそれぞれ寄託・展示されていたことも記憶に新しいかと思えます。

また、南北朝時代に両寺はいずれも後村上天皇の行宮(行在所)として南朝勢力の重要な拠点となりました。そのため、武将・楠木正成ゆかりの武具や古文書も遺されているのです。

両寺に伝えられる真言密教と南朝の文化遺産を通して、河内長野の濃密な世界をお楽しみいただきたいと思います。

(井並林太郎)



重要文化財 金銅蓮華瓶 大阪・観心寺



重要文化財 藍韋威腹巻
大阪・天野山金剛寺



重要文化財 伝宝生如来坐像 大阪・観心寺
画像提供: 公益財団法人 美術院
撮影: 金井杜道



国宝 日月四季山水図屏風 大阪・天野山金剛寺



明治古都館の耐震改修

京都国立博物館長 松本伸之

今冬は京都市内でもしばしば雪が舞い、古都の風情溢れる姿を目にすることができました。この小冊子が出回る頃には、桜花が雪に取って代わって、ほのぼのとした温もりをもたらしてくれることでしょう。博物館に並ぶ数々の文化財は、こうした季節のうつろいを幾たびも経て、現在まで伝わったものです。

明治三十年（一八九七）の開館以来、当館の顔ともなってきた明治古都館（本館）も、そうした文化財の一つです。フランス・パロック様式の中に日本的な感性を取り入れてなったこの建物は、近代日本建築の優れた作例として、昭和四十四年（一九六九）に表門や袖塀などと共に国の重要文化財に指定されています。東山の閑静な地にたたずむ壮麗な姿は、そのまま当館の歴史を物語るものでもあります。

この明治古都館では、これまでに特別展をはじめとする数多くの催しが行われてきました。しかし、その構造上、老朽化に加えて耐震強度に懸念される箇所があり、平成の中頃から耐震性能診断を行うなど、災害への対策を練ってきたところです。そうした検証の結果、末永くこの建物を維持していくためには、耐震補強を行うのがよいという判断に至りました。

一口に耐震補強といっても、建物の素材や構造などにより、その方法はまちまちです。専門家とともに検討を重ねたところ、明治古都館のような煉瓦造りを基本とする建造物では、単なる補強というより、建物全体を支える免震装置を床下に設置する方法、つまり免震工法が最もふさわしいという結論に達しました。

免震工法の採用が固まったとは言え、それだけではすぐに着工するわけにはいきません。免震装置を設置するのが地面です

から、歴史ある土地柄、地下に眠る遺構などの確認を行わなければなりません。諸々の準備を経た後、平成二十七年（二〇一五）からは、明治古都館を休館し、慎重に周辺の発掘調査を進めてきました。調査の過程では、当館の敷地にかつてあった豊臣秀吉創建の方広寺の築地塀跡が発見されるなど、大きな成果が上

がたりもしているのです。ご存じの方も多いかと思えます。この間、明治古都館という歴史的な建築物を将来にわたってどのように保存し、活用を図っていくのか、その基本計画の策定を並行して行ってきました。発掘調査によって新たな知見が得られると、基本計画にも変更を施す必要が出てきたりもしています。

耐震改修を進める上での準備段階となる発掘調査がほぼ完了を見つつあるいま、いよいよ改修計画の最終版を仕上げる段階となってきました。現時点でのスケジュールでは、令和四年（二〇二二）度中に基本計画を固め、設計準備を経て具体的な設計業務を数年かけて行い、その後、免震改修・保存修理の実際の工事へと進む予定です。まだまだ長い工程が想定されていますし、こうした計画の進捗を図るためには、何より関係各方面の協力と巨額にのぼる予算の獲得が必須の条件となります。

いったいいつになったら明治古都館を開くのか、といったお声も頂戴しているところではありますが、かけがえのない遺産を未来へ確かに伝えかつ有効に活かしていくため、拙速を避けながら、耐震改修を着実に進行していけるよう取り組む所存ですので、どうぞ皆様のご理解とご支援を心よりお願いいたします。

【ミュージアムパートナー一覧】

※令和4年3月末現在
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

【ゴールド】

三州ペイント株式会社
土屋 和之

株式会社SOMIZホールディングス

株式会社 俄

ZS&T株式会社

【シルバー】

有限会社 竹内美術店
学校法人 二本松学院

【寄附】

京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の想いを次の一〇〇〇年へと繋いでいくため、広く寄附を募っております。このたび、左記より寄附をいただきました。寄附の趣旨を踏まえ、大切に活用させていただきます。

伴 奏子 様

【キャンパスメンバーズ】

※令和4年3月末現在

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。

学校法人 瓜生山学園 / 国立大学法人 大阪大学 /

大阪大谷大学 / 大谷大学 / 大手前大学 /

学校法人 関西大学 / 学校法人 関西学院 /

国立大学法人 京都大学 /

学校法人 京都外国語大学 / 京都工芸繊維大学 /

学校法人 京都産業大学 / 学校法人 京都女子学園 /

京都市立芸術大学 / 京都精華大学 / 京都橋大学 /

京都府立大学 / 近畿大学 / 国立大学法人 滋賀大学 /

四天王寺大学 / 就実大学 / 成安造形大学 /

学校法人 大覚寺学園 / 帝塚山大学 /

学校法人 同志社 / 奈良大学 / 奈良女子大学 /

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 /

学校法人 二本松学院 / 花園大学 / 佛教大学 /

学校法人 立命館 / 龍谷大学

【ご来館くださる皆様へ】

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のための取り組みを行っております。安心して博物館をお楽しみいただける環境維持のため、マスクの着用、検温など、皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

講座・イベント

《記念講演会》

- ① 4月16日(土) 対談「伝教大師最澄を語る」／落語「伝教落語」
天台宗宗務総長 阿部昌宏 氏／落語家、天台宗道心寺住職 露の団姫 氏
- ② 4月23日(土) 対談「日吉大社山王祭と神輿」
日吉大社禰宜 須原紀彦 氏／京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦
- ③ 5月 7日(土) 「天台宗の信仰と仏画」
京都国立博物館保存修理指導室長 大原嘉豊
- ④ 5月14日(土) 「天台のみほとけたち」
京都国立博物館上席研究員 浅湫 毅

【時間】13時30分～15時

【会場】平成知新館 講堂

【定員】各100名 ※抽選による座席指定制。

【料金】聴講無料(ただし、講演会当日の本展覧会観覧券が必要)

【応募方法】はがきかファクス(06-6366-2370)に、代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と同伴者(1名まで)の氏名、年齢、参加希望日を書いて「〒530-8551(住所不要) 読売新聞大阪本社文化事業部「天台展」講演会係」へご応募ください。

展覧会公式サイト(<https://saicho2021-2022.jp/>)からもお申し込みいただけます。

※はがき1枚につき1講演会のお申し込みとなります。①は3月16日(水)、②は3月23日(水)、③は4月7日(木)、④は4月14日(木)必着です。応募多数の場合は抽選となります。当選された方には開催日の2週間前までに郵送にて参加証をお送りします。

※聴講には講演会当日の本展覧会観覧券が必要です。開始時間前までにご入館いただき、講堂入口で参加証をご提示ください。

※熱で消せるボールペン(フリクションボールペン等)は使用しないでください。

※お預かりした個人情報、本展記念講演会の連絡のみに使用します。

お問い合わせ:読売新聞社大阪本社文化事業部 電話 06-6366-1747(平日午前10時～午後5時)

《特別展「最澄と天台宗のすべて」キャンパスメンバーズ講演会》

【講師】大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)

【日時】5月7日(土)11～12時

【会場】平成知新館 講堂

【参加方法】4月28日(木)までにウェブサイトよりお申し込みください。
https://www.kyohaku.go.jp/jp/event/etc/20220507_campus-lec.html

《土曜講座》

6月18日「日本古代の遷都事情—飛鳥から藤原京、藤原京から平城京へ—」

京都国立博物館学芸部長 尾野善裕

6月25日「御室焼と彩色材料—色絵釘隠の事例—」

京都国立博物館保存科学室長 降幡順子

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員100名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。

※当日10時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

《令和4年度夏期講座のお知らせ》

【テーマ】動乱の時代—14世紀

【開講日】8月5日(金)・6日(土) *1日3講、計6講座となります。見学会はありません。

【会場】平成知新館 講堂

【定員】各100名

【聴講料】3000円(税込)

【申込方法】往復はがきに住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、京都国立博物館「夏期講座」係(〒605-0931 京都市東山区茶屋町527)までお申し込みください。お申込期間は6月1日～10日です。
*5月31日以前の申込は無効となります。申込人数が定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。

これからの展覧会

- ◆特別展 ^{みやこ}京に生きる文化 茶の湯
2022年10月8日(土)～12月4日(日)

新型コロナウイルス感染症予防、拡大防止のため、展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいませよう願いたします。

◆部分開館および庭園のみ開館の予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー部分開館：6月14日(火)～6月19日(日)
2F、1Fのみ開館(3Fは閉室)
6月21日(火)～6月26日(日)
2F、1F、3F-1のみ開館(3F-2は閉室)

庭園のみ開館期間：3月23日(水)～4月10日(日)
5月24日(火)～6月12日(日)

ご利用案内

【開館時間】<3月23日～4月10日> 9:30～17:00
<4月12日～5月22日> 9:00～17:30
<5月24日～7月28日> 9:30～17:00
*入館は各開館の30分前まで

【観覧料】庭園のみ開館期間

<3月23日～4月10日> <5月24日～6月12日>
一般 300円、大学生 150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がつきます。

【特別展「最澄と天台宗のすべて」】

<4月12日～5月22日>

一般 1800円、大学生 700円

*中学生以下、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります(当日南門チケット売場のみの販売)。

*団体券はありません。

*特別展期間中、名品ギャラリー(平常展示)は休止となります。

【名品ギャラリー】

<6月14日～7月24日>

一般 700円、大学生 350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

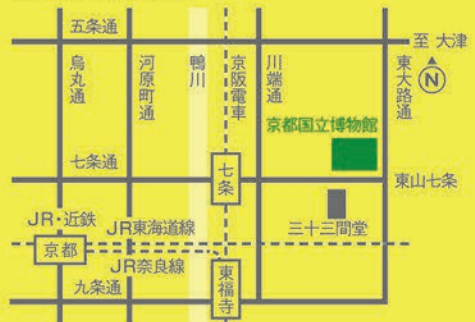
【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD1のりばより100号系統、D2のりばより206・208号系統、にて博物館三十三間堂下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527
TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)
ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2022年4月1日 デザイン 谷なつ子
編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

